

ふで こ づか 筆 子 塚

寺子屋の生徒を「寺子」とか「筆子」といいました。

寺子屋は、江戸時代から明治時代の初めにかけて全国各地に開かれた教育機関で、武士や僧侶や神官などの有識者ゆうしきしやが、庶民の子どもを対象に読み書きさんじゆつや算術を教えました。



寺子屋のようす

(江森一郎『「勉強」時代の幕あけ』平凡社より)

はじめは城下町や宿場町などに設けられ、次第に農村漁村へ

もひろがり、江戸時代末期に最盛期を迎えました。明治にはいっても存続した寺子屋も少なくありませんが、小学校教育の充実にともなって減少し、明治10年代(1877~1886)にほぼ消滅しています。

江戸川区域での寺子屋の開設は、下平井村の田口初右衛門しもひらい たぐちはつえもんの文化9年(1812)が最も早く、幕末までに20余りを数えます。

そのほとんどは読み書きを教えたもので、教材には習字手本しゅうじてほんのほか、「往来物おうらいもの」とよばれる手紙や実用文をまとめたものや、地理や歴史、その他の一般教養書などが使われました。

筆子塚の建立

区内各地の寺院では、こうした寺子屋師匠を慕って建てられた墓や石塔を見ることができます。これを「筆子塚」といいます。

筆子塚は、江戸時代末期から明治時代にかけて建てられました。多くは石台に「筆子中」の文字が刻まれ、成長した生徒(筆子)たちが建立に尽力した

ものであることを伝えています。

これらは初等教育に情熱をかたむけた寺子屋師匠や、そうした師匠を慕う筆子たちの姿を偲ばせてくれるとともに、区内の寺子屋の存在を伝える貴重な遺物です。

例えば東葛西の清光寺せいこうじの墓地には、表裏を平に磨いた厚さ10cmほどの自然石あおやぎじょうきょうさんゆうしんじれいに「青柳あおやぎ讓じょう教きょう三西さんせい信士しんし靈れい」と刻んだ墓石があります。

これは青柳三西の墓で、背面に「本邨ほんそん筆子中」とあり、明治12年(1879)9月に三西に没した後、彼を慕う生徒たちによって建てられたと考えられます。

寺子屋から家塾へ

青柳三西は、文久2年(1862)に長島村で寺子屋「長運堂ちやううんどう」を開業し、読み書きを教えました。平井の田口初右衛門の開業より50年程遅れますが、農家を借りて開業していた寺子屋としては、古いもののひとつと言えます。

明治に入ってから教授を続け、明治6年(1873)からは家塾かじゆくとして引き続き教授にあたり、明治12年(1879)9月29日に69歳で亡くなりました。なお、家塾開業時の生徒は、男子22名、女子14名の計36名でした。

家塾というのは、明治5年(1872)に発布された学制がくせいのなかに「私宅おいてこれニ於テ之ヲ教ルモノハ、之ヲ家塾トス」とあるように、学制発布以前の寺子屋にあたります。

明治6年(1873)の「開学明細調かいがくめいさいしらべ」によれば、江戸川区域内には29の家塾がありました。そのうち教師(塾主)の自宅を教場とするものが15、寺院が6、そのほかは借家であり、青柳三西の家塾「長運堂」も借家(西野たけえもん武右衛門家)でひらかれていました。

寺院以外の教師のほとんどは営農者で、明治になってから開業したものも少なくありません。当時、こうした庶民教育機関への要請が高かったのでしょう。



青柳三西筆子塚(清光寺)

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)